

令和7年度 第1回地域連携推進会議 会議録

社会福祉法人 常盤会

共同生活援助事業所 サポートハウス

-
- 1 日 時 令和7年11月21日（金） 9：00～
- 2 場 所 ハウスしろやま 会議室
- 3 委 員 利用者代表 Aさん、Bさん、利用者家族代表 Cさま、
地域関係者 Dさま、学校関係者 Eさま
- 4 参加者 サポートハウス施設長 富岡一丸、主任 宮元一成、
サービス管理責任者 江藤賢正
-

1 はじめに

地域連携推進会議の目的として、利用者と地域社会の接点を増やすことで、閉鎖的な運営を防ぎ、サービス品質を高める狙いがあることとして、配布資料を参考に、以下の事項について説明しました。

- (1) 利用者と地域との関係づくり
- (2) 地域の人への事業所等や利用者に関する理解の促進
- (3) 事業所等やサービスの透明性・質の確保
- (4) 利用者の権利擁護

2 事業所と地域との連携について

当事業所が障害者に提供する障害福祉サービスに関する基本的な取組みとして、以下の事項について説明しました。

- (1) 当事業所の利用者における障害特性について
障害支援区分などを参考に、利用者の障害特性などを説明しました。
- (2) 苦情・要望等の報告
昨年度に事業所へ寄せられた苦情・要望・相談などを説明しました。
- (3) 地域行事、イベントのご案内（地域より）
地域における行事やイベントなどについて、推進員より案内いただきました。

3 サービス提供の透明性・質の担保について

当会議の取り組みにより、推進員の方々が住居を見学してくださることを通じ、皆様からの「視点からの気づき」等を通じ、サービス提供の透明性や質の担保を図ることが大切であると考えていることとして、以下の事項について説明しました。

(1) 利用者の日常生活の様子について

利用者家族へ配布している事業所だよりを示しながら、日常生活の様子を説明しました。

(2) 事業所における経営状況のご報告

昨年度の事業所における収支状況を説明しました。

(3) B C P（事業継続計画）の策定状況について

感染症および自然災害について、B C Pが策定されていることを説明しました。併せて、B C Pに関する研修および訓練について、昨年度の実施状況を説明しました。

4 利用者の権利擁護について

障害福祉サービスを行う上で、利用者の権利擁護については最も注意を払っていることとして、以下の事項について説明しました。

(1) 虐待・身体拘束、事故・ヒヤリハットの報告

昨年度における虐待・身体拘束の有無の確認、事故・ヒヤリハットの概要などについて報告しました。

(2) 支援状況（権利擁護の取組み）について説明

人権擁護委員会、虐待防止委員会・身体拘束適正化検討委員会、権利擁護に関する研修、など、権利擁護に関する取組みについて説明しました。

(3) 利用者の意向に対するアンケート結果のご報告

Q C サービス向上委員会の活動として昨年度に実施した、利用者アンケート結果について説明しました。

5 住居の見学（推進による）

6 住居等を見学した際に気付いた点などについて推進員から以下のようなご意見をいただきました。

- ・ 子供が入居しているハウスは何度も訪れているが、他のハウスの中に入るのは初めてだったので全体の様子が分かりよかった。
- ・ うちの子供は日によってではあるが、送迎車からなかなか降りようとせず職員のみなさんには迷惑をかけており申し訳なく思う。ひとつだけ気になる声掛けがあった。それは「○○さん、やっぱりおうちがいいんだね。」というものである。もちろん、なんとか降りてもらおうとの良心に発する言葉だということは分かっている。しかし、親としては通所してほしいという気持ちでいるのに、「ここ（通所先）よりもおうちのほうがいいですよ」と言われているような気がして複雑な気持ちになることがあった。」
- ・ 生徒の産業現場実習時の体験入居やその他の会合等でハウスを訪問することはあったが、食堂や共用室、風呂や洗面所等を見学することはなかったので大変よい機会であった。また、利用者と直接会話することができたのもよかった。
- ・ 今後の実習がイメージを持って関わっていけるのでよかった。

7 次回の開催予定について（地域連携推進会議は年 1 回以上開催する）

- ・ 今年度の第 1 回推進会議は本日実施。第 2 回推進会議は、来年 2 月開催予定となった。

令和7年度 第2回地域連携推進会議 会議録

社会福祉法人 常盤会

共同生活援助事業所 サポートハウス

-
- 1 日 時 令和8年3月23日(月) 10:00～
- 2 場 所 ハウスしろやま 会議室
- 3 委 員 利用者代表 Aさん、Bさん、利用者家族代表 Cさま、
地域関係者 Dさま、学校関係者 Eさま
- 4 参加者 サポートハウス施設長 富岡一丸、主任 宮元一成、
サービス管理責任者 江藤賢正
-

1 はじめに

地域連携推進会議の目的として、利用者と地域社会の接点を増やすことで、閉鎖的な運営を防ぎ、サービス品質を高める狙いがあることとして、配布資料を参考に、以下の事項について説明しました。

- (1) 利用者と地域との関係づくり
- (2) 地域の人への事業所等や利用者に関する理解の促進
- (3) 事業所等やサービスの透明性・質の確保
- (4) 利用者の権利擁護

2 住居の見学(錦江台→石塚→皇徳寺)

3 住居等を見学した際に気付いた点などについて推進員から以下のようなご意見をいただきました。

《Dさま(地域関係者)から》

- 錦江台の台所・共用室がきれいにされていた。
- 石塚の下駄箱にホコリがあった。
- 全体的によく管理されていた。初めてだったのもっとゆっくり見られたらよかった。
- 町内にこのような施設があるとは全く知らなかった。町内会でみなさんに報告するとともに機会があればまた見学したい。

《Cさま(利用者家族代表)から》

- どの住居も風呂・洗面所が綺麗に整理整頓されている。
- サポートハウスの職員の声かけ「〇〇さん、変わった事ありませんでしたか、体調はどうですか？」などのチョットした一言を大変うれしく思います。安心していて大変感謝しています。体調の変化や熱が出たときいち早い一報をくださり感謝しています。

《E さま（学校関係者）から》

- 集団生活ではあるが、食事のとり方など個々に任せているところもあり、一人一人のライフスタイルを尊重されているように感じました。
- 老朽化が進む建物を今後どのようにしていくか、早めの対応が必要に感じました。
- 交通の便が悪いのが気になりました。